

大学での授業・評価・学習について

—大学での授業評価調査のフリーアンサーを読んでの考察と授業改善—

On Lecture, Evaluation, Learning at University
Lessen Improvement from Free Answers in the Student Evaluation of Lectures

真 貝 健 一*

Ken'ichi SHINGAI

1 問題の所在

学生の授業中や授業後の意見を基にして、大学の授業の評価手続きを改善した過程が報告されている（真貝2010）。大学も教育の現場であるので、指導法を改善する試みは全教員に求められるところである。大学で行われている授業評価調査での学生の回答から、授業改善の示唆を得ることも多い。しかし、その調査の中でのフリーアンサーを読むと、学生の方にも主体性に欠けるなどの学習態度に改善すべき点も見受けられる。それらの経緯や授業改善の試み、そして、学生への要望も述べたい。

2 授業評価調査での学生のフリーアンサー

1) 理科指導法A（初等理科教育法）

2010年度後期に実施

家政教育、学校教育臨床講座学生中心

受講者数56、回答者数45

フリーアンサー記述者数12

a 授業の流れ

理科指導法Aのねらいは、小学校で理科の授業を行う際に教師に必要とされることは何かを考えさせ、主に認知領域の指導をすることである。情意領域についても高めたいと思うが、学生が既に形成していることも十分考えられる。感覚・運動領域については学習指導案や評価問題の作成を実際に行わせる程度で、教育実習での学力形成を待ちたい。

理科指導法Aの指導計画を図1に示す。

b フリーアンサー記述内容の要約とそれへの反論およびコメント

（類似の記述はまとめ（ ）内の数値で表す。）

・話がよく分からなかった。（4名）

・無駄話が多い。

○話を分かりやすくするために、ことわざやアナロジーを話に織り込んでいるのだが、逆効果になっている学生

- | | |
|----------------------------------|----------------|
| ① | オリエンテーション |
| 1 | 理科の教師に必要とされるもの |
| ② | 2 理科教育の目的・目標 |
| ③ | 3 理科教育の内容 |
| 1) | 科学的態度 |
| 2) | 科学的思考 |
| ④ | 3) 科学の方法 |
| 4) | 科学概念 |
| ⑤ | 4 理科教育における評価 |
| 1) | 学習の評価 |
| ⑥ | 2) 授業の評価 |
| ⑦ | 5 理科の授業設計 |
| 1) | 理科の指導計画 |
| 2) | 学習指導案とその役割 |
| ⑧ | 3) 授業設計の手順 |
| 4) | 実行目標の決定 |
| ⑨ | 5) 実行目標の分析 |
| ⑩ | 6) 学習指導案の作成（1） |
| ⑪ | 学習指導案の作成（2） |
| ⑫ | 6 学習指導案の検討 |
| 1) | 2) |
| 3) | |
| ⑬ | 4) |
| 5) | 6) |
| ⑭ | 7) |
| 8) | |
| ⑮ | 7 まとめ |
| 評価方法：6での指導案および発表に20点、7の試験で80点を配点 | |

図1 理科指導法Aの指導計画

もいることが分かった。

・学生が質問したことに対して否定的にしか返答しない。（2名）

○日頃から、学生からの質問の少なさを嘆いている論者がそのような対応するはずがないと思うが、そのように見られていることもあると分かった。

・グループの発表を見て誰も手を挙げなかったら「プレゼンが悪い、君たちの作ったものは聞く価値がないとい

* 埼玉大学教育学部理科教育講座

うことだ」などと述べたりする。しかし、全てのグループの発表の後に手を挙げる人はいなかったのでプレゼンが悪いのではなく、指示の悪さがあるのは確実。

○学生の発表に学生からのコメントが何もなかったら君たちがその発表には価値がないと言っていることになるのです。だから自主的に発言してください。と言っても伝わらない現実がある。

・先生が遅刻をするのは良くない。(4名)

○時刻通りに授業を始める努力はすべきであると思う。赴任した二十数年前頃には時間通りに始める先生は消防自動車だ等と言われ嫌われていたことを思い起こすと隔世の感がある。

・声を張り上げ怒り出す。(3名)

○声が高いのは個性でもある。論者は授業で怒っている意識はない、しかっている意識はある。

・OHPの代わりにパソコンを。(2名)

○OHPをやめOHC(オーバーヘッド・カメラ)を使うことにした。そして、学生のノートや実物を即時に提示できることの利点も説明することにしている。

学部事務室にあるポータブルOHCは残念ながら性能が悪く、改善が行われるまで使用しないことにした(論文作成時点では)。

・理科の授業についての話がほとんど出てこなかった。野村先生の教育方法学概説と重複する部分が多かった。○理科教育の目的、内容、評価、そして授業設計と一通り行っている。複数の専修の学生に向けて授業なので、特定の専修向けの授業は難しい。既習というのなら、論者の授業でその力を発揮して欲しかった。

2) 理科指導法B(中等理科教育法)

2010年度前期に実施

理科教育講座学生が中心

受講者数50、回答者数30

理科教育学の教員2名で約半分ずつ担当

フリーアンサー記述者数9

a 授業の流れ(論者担当分)

<授業の目標>

中学校理科1時間分の理科学習指導案を作成する。

その学習指導案は以下の条件を満たしているものとする。

1. 目標が明確である(実行目標の形で書いてある)。
2. 目標の達成を評価する方法が示されている。
3. 目標の分析がなされており、生徒のミスコンセプション・素朴概念の分析もされ、それらの関係が図示されている(構造分析)。
4. 教授活動、学習活動が明示されている。
5. 諸学習論の主張が反映されていることが望ましい。

<指導計画>(論者は9回以降を担当)

⑨ 授業目標の設定と評価の方法の決定

⑩ 発表

⑪ 授業目標の分析

⑫ 発表

⑬ 学習指導案の発表

1) 2) 3) 4)

⑭ 5) 6) 7) 8)

<成績評価>

3つの発表それぞれに評点を付け合計点を出す。各班毎、班員全員に同じ評定とする。ただし、場合によっては、全員に個人毎のレポートを求めることも想定される。

b フリーアンサー記述内容の要約とそれへの反論およびコメント

(発表者の授業に対するコメントと思われるものに絞る。類似の記述は()内の数値で表す。)

・出席を確実にとって。(5名)

(日によって全員出席とすると来ていない人も出席になってとても不公平だと思う。

そういうことをされると出席する意欲が大きく減少しました。)

○出席していることを認めてほしいという記述が多く見られる。しかし自分が出席した授業でどんな学習をしたか、つまり、どんな情報を得たかが重要であり、他の人が欠席しているということはそれに関係のないことである。論者には、学生が相対評価に慣らされているとしか思えない。

・OHPでなくパソコンプロジェクターを使って。

○OHPをやめOHCを使うことにした。(前述を参照)

・両先生で評価等の基準が違いすぎる。

○評価等の基準は教師間で調整すべきかもしれない。しかし、評価等の基準も様々であり得るということも学生にとって重要な情報でもあり、学生が自分ならどうするのかと考える機会にしてほしいとも思う。

・時間通り始めてほしい。

○できるだけ時間通りに始める努力はしている。1日だけは引き継ぎがうまくいかず空白にしてしまった。

・全くグループ活動にした意味がなかった。

(グループでの宿題を出すなら時間の合うような人と組まなくてはだめ。)

○グループ活動をさせた意味はあったと思う。少なくとも、学生がグループ活動を行う際の難しさを体験できたのだから。学生には、主体的にメンバーの変更などの提案を申し出るなどできるようになって欲しい。また、学生それぞれの持つ、あるいはその場で考案した情報を寄せ合って課題解決を進める能力と、それを快く思える心情を育てていきたい。

・学習指導案を発表する場面があったが、それは基礎実習で行っているため、「指導法」を学びたかった。

○「学習指導案の書き方」を指導したのではなく、「学習指導計画の立て方」を指導したつもりであったが、この

学生には伝わっていなかったといわざるをえない。行動主義学習論や構成主義学習論に裏付けられた「学習指導計画の立て方」の指導により力を注ぎたい。

・真貝先生かわいい。

○論者のファンもいることが分かって少し嬉しい。

3 授業改善の努力

学生自身が主体的な学習を進める必要があり、教員はそれを支援する必要がある。具体的には、学生が自分自身をどのような人物にまで高めたいのかを明確にする必要がある。そのためにそれぞれの授業でどのような学力を形成すべきなのかを考え授業を受けるべきである。教員は学生がそのようになる確率を高めるべく、良き支援者になる必要がある。

論者は、学生が理科の授業設計をする際に求める手順を自分の授業においても実践することを自分に課している。自分の行為の意図や行為そのものについても明確に伝わるように努力を続けたい。

この後は、昨年度の学生の授業評価から得た情報を、今年度の授業に生かし、授業の方法を改善を試みた事例を具体的に述べる。

1) 授業での出席の取り方の工夫

理科指導法A（理科専修生対象）や、教職入門（理科専修生対象）の授業の始めから数回の授業で、出席の取り方に工夫を施した。

小票を渡し、日付、授業科目名、在席番号、氏名を書かせ、さらに、その日の授業で一番印象に残ったこと、質問などを一つ以上書くように指示をした。

ここでは教職入門の授業での回答を検討してみる。

①2011.6.2 授業分

＜指導内容・指導方法に関するもの＞

- ・CH4は、飽くまでも先生の個人的な見解ではあるが、とても参考になった。
- ・慣性に対して感がないと言う話はとても面白かった。独特のやり方で、でも、こういう講義も大学らしくていいと思った。

このような、好意的なコメントが、17名から寄せられた。

- ・暗いところでスクリーンを見るのは、とても目が疲れます。

回答の中で、OHCでの情報提示にクレームが4名から寄せられた。

＜学生自身の学習の方針に関するもの＞

- ・教員になるために、どうすべきか、どのようなことを学ばなければならないか、を考えながら講義を受けようと改めて思いました。
- ・4つのHはよく考えられていると思った。この4つのHを実践できるようになれるよう、これから大学で多くのことを学んでいきたいと思います。（8名）

このようなコメントが、36名から寄せられた。なお、4つのHとは、Heart、Head、Hands、そしてHopeである。

＜学習指導のあり方に関するもの＞

- ・生徒達にも、どのような生徒になって欲しいか、そのためには、自分はどのような指導をしていかなければいけないのか、このようなことを考えながら、教員をやっていくことを学びました。
- ・自分は慣性の法則を理解して、それが当たり前のことと思っているが、始めて慣性を習う子供達の中には、理解するのが難しいと思う子がいるんだなあと思った。

このようなコメントが、7名から寄せられた。

②2011.6.9 授業分

＜「世界に一つだけの花」の歌詞について＞

- ・私はこの歌詞に賛同します。人間はそれぞれ得意・不得意、できる・できないがあり、人それぞれ違うものです。（5名）
- ・人間はNo.1を追い求めないといけないと思う。一生懸命高みを目指すのが人間らしいと思う。

この歌の歌詞に含まれるメッセージに、賛・否のコメントが30名から寄せられた。

＜学習指導のあり方について思ったこと＞

- ・学習の主体は生徒であり教員ではないといった教育の基本ともいえる内容を再確認した。ただ、生徒に対してどこまで関われるかといった問題には、どの程度の距離を取ればよいのか、と考えさせられた。
- ・教育とはその生徒の本質を見極め、その生徒にも気づかせてあげることだと思っています。（2名）

このようなコメントが、15名から寄せられた。

＜児童・生徒は教師を選べないという話について＞

- ・4年後現場に出た時に、もうそこで一人前にならないといけないと思った。（2名）

＜教員養成6年制、「医者とは生命を教師は人生を預かる」という話について＞

- ・人の命を預かる医者とは、同じだけの重みが教員にはあるというのはまさにその通りだと思います。
- ・教員養成6年制としたからといって、全ての教師が良くなるとは思えません。ならば4年で現場に送り出し、経験を積ませた方がいいと思います。（2名）

6名からコメントが寄せられた。教師の役割の大切さには異論がないが、教員養成6年制には賛成、反対と意見が分かれた。

＜ウリの話について＞＜家庭教育について＞＜授業で歌詞を使うことについて＞

それぞれ、2、3名からコメントが寄せられた。

ここで、小票を渡し、主席の確認をすると共に、学生とのコミュニケーションを図るという方法について、論者なりの評価をしてみたい。

学生にとっては、修学上不都合な点を即時に教員に訴えることができる。また、その日の授業で一番印象に残

ったこと、質問などを書くことにより、自分の学習を振り返ることにもつながる。

教師にとっては、次の授業での改善を検討する観点を得ることになる。また、学生がどの指導内容や、指導方法に関心を持ったかを知ることができる。

2) 授業のために筆者自身で作詞・作曲

教職入門（理科専修生対象）の授業の論者担当分の最後に、この授業のために筆者自身で作詞・作曲した「タイムマシーンに君の中に」を披露した。

「今日、タイムマシーンに乗って行った未来で元気な自分に会えたなら、夢や希望を持っている人ですね。会うことができないというのなら、夢を膨らます必要はありませんか。」と、録音したギター伴奏を教室に流し、演奏した。論者は、シンガー・ソング・ライターだから。

そして、卒業する4年後にどういう自分でありたいかを書かせた。回答時間は20分間ほどであった。その提出物が、その日の出席確認であり、論者担当の3回分の授業についてのレポートであると告げた。

学生はそれぞれ、「卒業する4年後にどういう自分でありたいか」について、思うところを書いた。そこに至るまでの学習の進め方も多くの学生が書いていた。

ただし、それらのレポートからは、この教材および指導法についての評価に関わる情報は得られなかった。

3) アンケートの記述の求め方についての提案

本論では、本学の授業評価調査の自由記述の書かせ方についてのみの提案をしたい。

結論から言うと、よりよい授業を目指すためには、授業の中で良い点であり次回以降必ず続けて欲しいと思う事項を、授業の改善に資するためのコメントとともに書いてもらうようにすることである。

世に出て人が人の行為を評価する時には、良い点と、改善すべき点との双方を認識し、それらを適切に表現することが求められる。

全ての学生に、そのような評価の能力を身につけさせることが必要である。授業評価を行う際にもその目標に沿うことが必要だと思う。

4 おわりに

大学での授業の設計と実施、学生の授業へのコメントの分析、そして授業の改善の試みについて述べてきた。

教員は、確立した自分の理論・指針を保持すべきである。と同時に、学習者である学生の意見を聞く耳も持たなければならない。学生にも、自らの目標を設定し、自己評価を適切に行い、自分自身を高めるといふ、自己教育力を向上させて欲しいと思う。

この後も、学生と共に授業の改善を図り、実践していきたい。

【文献】

真貝健一（2010）「大学の授業における評価手続き改善の過程－実践報告と考察－」『埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』No. 9

真貝健一（2011）「大学生の学習態度のあり方について」『日本科学教育学会年会論文要旨集35』

真貝健一（2011）「楽曲を教材化した大学の授業－教職入門、理科指導法Aの授業での実践例から－」『日本教材学会第23回研究発表大会研究発表論文集』

資料 1

タイムマシンは君の中に

2011.1.7.7

作詞 真貝健一

瞳を閉じて過去の自分に会えますか
瞳を閉じて未来の自分に会えますか
瞳を開いて現在の自分を見つめよう

君のタイムマシンで過去の自分に会いにいける
あんなに若く元気だった自分に
若いころタイムマシンを使って見た未来に
今日のあなたはなっていますか
成れていたら幸せな人ですね
ちょっと元気がないというのなら
初心に帰る必要はありませんか

君のタイムマシンで未来の君に会いに行こう
大人になって颯爽と活躍している君に
今日、タイムマシンに乗って行った未来で
元気なあなたに会えたなら
夢や希望を持っている人ですね
会うことができないというのなら
夢を膨らます必要はありませんか

君のタイムマシンでいろんな自分に会いに行こう
過去の自分を変えることはできない
未来の自分を変えるのは現在の自分
今日の自分を見直して
明日することをじっくり考えよう

瞳を閉じて過去の自分に会えますか
瞳を閉じて未来の自分に会えますか
瞳を開いて現在の自分を見つめよう

資料2 「タイムマシンは君の中に」の楽譜

タイムマシンは君の中に

2011.7.14

作詞・作曲 真貝健一



めをとじてかこのじぶんにあえますか

めをとじてみらいのじぶんにあえますか

めをひらいていまのじぶんをみつめよう

きみのたいむましんでかこのじぶんにあいにいける

あんなにわかーくげんきだったじぶんに

わかいころたいむましんをつかってみたみらいに

いまのあなたはなっっていますか

なれていたならばしあわせなひとですね

ちょっとげんきがないというのなら

しょしんにかえるひつようはありませんか